SOTO 禅 インターナショナル

発行日　1997年12月20日
発行人　松永然道　　編集責任者　福島伸悦
発行所　SOTO禅インターナショナル事務局　〒3610003 埼玉県行田市下中条1619－2
Tel.0485-57-0999　Fax.0485-57-2347　　URL:http://www.pa.airnet.ne.jp/szi
郵便振替　00100-6-611195 SOTO禅インターナショナル

創立5周年記念号 Vol.11

ペンシルベニア平等山禅堂にて

北米巡回布教を通して「間違いのない仏法を伝え、人の誓願のもとに」
愛知専門尼僧堂堂頭　青山俊董…… 1
特集／青山俊董老師「北アメリカ布教の旅」に随行して
東京観音庵副住職　笹川悦導…… 3
海外インフォメーション／ポーランド「平和祈念リトリート」板垣光昭 …… 8
イタリア「世界宗教者会議平和の集い」大谷有為 … 9
北米「開教師会議に参加して」橋本英樹……10
曹洞禅ジャーナルより「夢中説夢」開教センター所長　奥村正博……11
ＳＺＩだより／ワークショップ「海外開教と開教師支援について」……13
ホームページ紹介 ……14
寄付者・会費納入者名簿 ……15
秋葉玄吾北米総監就任祝賀会
総会のご案内
事務局活動日誌 ……16

北米巡回布教を通して
間違いのない仏法を伝え、人の誓願のもとに

愛知専門尼僧堂堂頭　**青　山　俊　董**

13年ぶりにアメリカを再訪する機会を得、半月の間に15ケ所の禅センターや大学等で、彼の地の熱心な求道者達と共に、参禅し提唱し、あるいは仏法について、禅について語りあってきた。

12年前、彼の地を訪ねたときは、鈴木俊隆老師こそ遷化されておられたが、奥さまがしっかりと後見しておられ、前角老師、片桐老師らが八面六臂の御活躍の最中であった。帰国の前日、サンフランシスコの金門橋のたもとに立ったとき、折しも夕日が天地を黄金に染めて真西に沈むところであった。侍者のベナージュ大円尼が、その夕日の方向を指さしながら叫んだ。

「老師さま！あちらが日本です。仏法は今、日本からアメリカへ来つつあります。」私はこの言葉を心の奥深くに受けとめながら「仏法東漸」という言葉を思い、間違いのない仏法をアメリカへ伝えねばならないと、改めて日本仏教僧侶に課せられた使命の重大さを思ったことであった。

13年後、再び彼の地を訪ね得た今日、すでに片桐老師、前角老師なく、弟子、孫弟子の時代となっていた。又この間に、たとえば日本で長く修行して帰国したベナージュ大円師や、内山興正老師の弟子、孫弟子達等、多くの方々の血のにじむような努力によって新しい道場が誕生し、育っていた。

一方、禅宗寺、桑港寺等、日本よりの移民の方々の

心の支えとして出発した寺の役割は、当所の目的を終え、大きく方向転換すべきときを迎えているようである。アメリカ開教100年。移民邦人も三世の時代となり、ほとんどは日本語がしゃべれなくなったばかりではなく、物の考え方もアメリカナイズされてきて、先祖を祀る菩提寺なるがゆえに、というだけでは足は向けられなくなってきた。国境を越え、人種を越えて、人生の真実の生き方を問う参禅聞法の道場へと、一日も早く脱皮せられんことを切望するものである。

松尾芭蕉に不易と流行という言葉がある。不易とは、変ってはならない一点、真理そのもののことである。この一点を変えたら仏法ではなくなるというその一点は、時と処を越えて永遠に相続されてゆかねばならない。流行の方は時と処に応じて変幻自在に展開されるべき一面のことである。

インドの仏法が、玄奘三蔵を始め多くの方々の努力によって中国に伝わり、消化され、中国的展開をし、更に1500年前、日本に渡来した。直輸入時代の奈良朝を経て、仏法が真に日本的展開を遂げる鎌倉期までに700年の歳月を要している。その背景には鑑真和尚を始め多くの高僧達を唐土より迎え、あるいは間違いのない仏法を、禅を求めての入唐、入宋などの努力が限り無く、くり返されたのである。

同じ問題が、今アメリカと日本の間に問われている。アメリカに仏法が渡って100年。荒地が拓かれ、種が蒔かれ、芽生え、苗が育ち始めた段階といえよう。拓き種まきをした方々はすでに亡く、育った苗たちを間違いのない仏法の木として成長させてゆくためには、心ある日本の仏教者の、禅者の、本腰を入れての惜しみない応援が、見守りがないといけない。拓かれた地はいまだ仏法の土壌としては豊かならず、導いてくれる先達も少ないままに、これらの苗は軌道をはずれ、はずれたことにも気づかずに伸びるか、あるいは立ち枯れしかねない恐れがある。

私事にわたって恐縮ながら、私はこの道に入り、さいわいに修行道場の堂頭という立場のお陰で、まがりなりに一筋に修道生活をさせていただいてすでに50年の歳月が過ぎた。さいわいによき多くの師家に参りつつ半世紀をかけて、ようやくに仏法の入り口に立ち得た思いである。5年や10年の研鑽で広大深遠な仏法がわかってたまるか、の思いであり、道元禅師のおっしゃる「道無窮」の思いひとしおの昨今である。

平等山禅堂での摂心が終った日、一人の参禅者が真剣に質問してきた。

「これからの平等山禅堂の僧伽のあり方について、老師の望まれるところは？」

私は答えた。

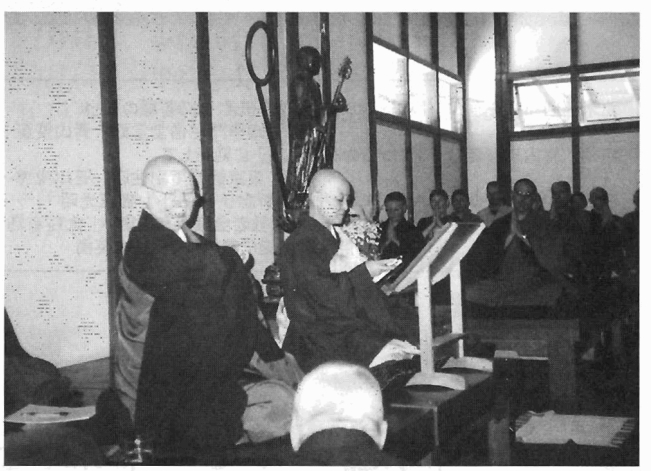
「一人では修行できない。志を同じくする僧伽を育ててゆかねばならない。しかしその在り方は垣根をつくらないこと、色づけをしないこと、透明な僧伽のあり方であってほしい。

垣根でしっかり守られていたほうが、色づけがあったほうが、仲間同志の結びつきは固くなり、あるいは中にいるものは、そのグループの中にいるというだけで安心感があるかもしれないが、それは言葉を変えればグループ呆けというもの。それではいけない。しかも垣根や色づけがされているところへは第三者は入りにくい。

いつでも、誰でもが、わが家へ帰るような思いで出入りできる、そういう在り方の僧伽を築いてほしい」と。

同じことをアメリカ各地の禅道場に向って叫びたい。どれほどに柔軟な姿勢で、どれほどの歳月をかけて学んでも、はるかにはるかに及ばない、仏法という、禅という広大深遠な相手に対し、互いに自分の貧しさを自覚し、謙虚に学びあい、補いあいつつ、間違いのない仏法をアメリカに伝え、消化し、あせらずに時間をかけてアメリカ的展開の道を探ってほしい。

伝える日本側にしても、釈尊より2500年、多くの祖師方の限りない御努力によって連綿とお伝えいただいた正伝の仏法を、禅を、間違いのないものとしてアメリカに、ヨーロッパに伝える使命の重大さを、同時に手本としての日本本土にあっての僧侶の在り方を真剣に問わねばならないと思うことである。



グリーンガルチ禅堂内で提唱する青山師
通訳 ベナーシュ・大円師

提唱に聞き入る聴衆

特　集

青山俊董老師
「北アメリカ布教の旅」に随行して

東京・観音庵副住職　笹　川　悦　導

平等山禅堂での行鉢
右　筆者（笹川悦導師）

去る10月15日より31日までの半月間、愛知専門尼僧堂堂頭、青山俊董老師「北アメリカ布教の旅」の随行をさせて頂く御縁に恵まれた。

老師の「布教の旅」は、「アメリカに於ける女性の禅指導者を支援する会」を発足させて、ベナージュ・大圓尼師が開く平等山禅堂を訪ねることを主目的とし、4月に開設された北米開教センターの懇情による日程計画に従い、ロスアンゼルス、ペンシルバニア、ノーサンプトン、ボストン、サンフランシスコと西から東または西へとアメリカ大陸を一往復しての行程であった。

強行なスケジュールの中、老師はお疲れも見せず5分でも10分でも多くの人々に仏法を伝えたい道念に意欲を燃され、各地で大きな感動と反響をよび、そして鋭い数多の質問を受けるという、実り深い充実した内容の旅であった。

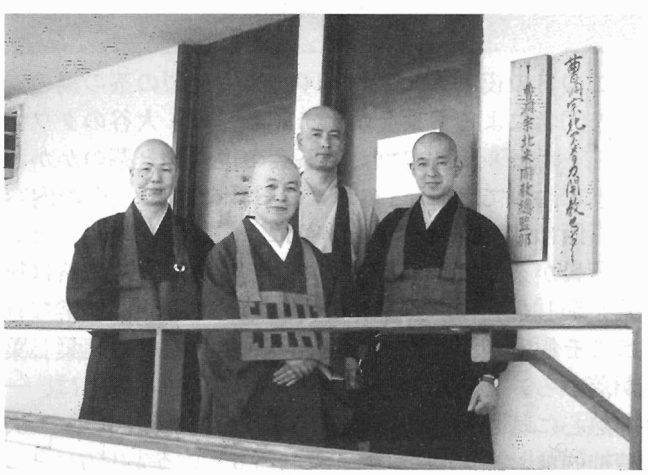
ことに私は、初めて観るアメリカの風土と環境、社会そしてさまざまな人種、何の予備知識も持たずしての老師のお伴でしたが、行く先々で出会わせて頂いた開教諸師の仏法に対する真摯な求道意欲と、自らをきびしく律しておられる姿勢に、日本仏教の曹洞宗侶としての日々の生活を根本改革しなければならない思いにかられると同時に、この方々ありてのアメリカ禅仏教を痛感せずにおれなかった。

また禅仏教を通して心の癒し、依り処、生き方を求めるアメリカ人の3分の2が女性であることと、サンフランシスコを中心に尼僧さんの多いことに女性の精神的な自立と、女性による女性の本格的な禅指導者を育てねばならない必要性を感ぜずにおれなかった。すぐ迎える21世紀のアメリカは、女性が禅仏教のリーダーとなって美しい花を咲かせていく方向性がみえている。しかしどのように展開していくのか一抹の不安と考慮すべき問題を残していることも現実であり、課題のひとつである。

老師の巡回先を振り返りながら、平等山禅堂に焦点を当てて述べてみたい。

ロスアンゼルス

10月15日ロスアンゼルスでは、北米開教センター書記の横山泰賢（広島出身）開教師と青山老師の茶の湯のお弟子でロスアンゼルスに赴任中の村山氏が出迎えて下さり、禅宗寺拝登。山下顕光元開教総監に拝謁し、隣接する北米開教センターへ挨拶。夕刻、ロスアンゼルス100万ドルの夜景を一望できるタワーレストランにて開教センター主催による歓迎夕食会。2日目は、前角博雄老師が開設されたロスアンゼルス・禅センターを拝登。監寺役の慧玉尼さんの案内で堂内を拝観。広々とした禅堂は常時30名の坐蒲が用意してあり、毎日出家在家を問わず訪れる人が自由に修行できるようにしてあるという。



北米開教センター事務所前にて

ロサンゼルス禅センターにて

前角老師の御遺骨が祀ってある開山堂を詣で、別棟に集まっていた20名の参禅者と日本からのお土産として持参した「志野・織部」という菓子で抹茶を一服頂いた。この菓子の袋には、老師の墨跡、円相がデザインされており、この円相の意味を横山師の通訳で説明され、楽しい茶話会であった。中には「今日老師にお会いしたらいろいろ質問しようと思っていたが、わずか3、40分の話の中で、その質問がすべて解けました」と感激している人の姿があった。

茶会風景

この日の夜はロスアンゼルス茶道連盟の茶の湯の先生方50名によるお茶会がホテルニュー・大谷のクワィエットホールで開かれた。茶会の後「禅と茶のかかわり」について老師は1時間ほどお話をされ、その内容は「飯に遇ては飯を喫し、茶に遇ては茶を喫す」という背景が茶道の基本となっていること。利休の茶は無常を楽しむ芸術。無常は悲しいものでなく、無常なればこそ樹々が芽ぶき、青葉若葉となり、秋は紅葉し葉が落ちる、という自然の摂理なのだというお話に、一同熱心に聴き入っていた。茶の点前論議はしていても、精神的なお話を聞くのは、はじめてという先生方にとっては、師家であり茶の湯の指導をされておられる老師に親近感を持たれたようである。

ロスアンゼルスの最後の夜は、老師の新刊「花雨情」のサイン会になったり、記念写真を撮るなどして大いに盛り上がった。

平等山禅堂（マウント・エクィティ）

10月17日㈮、老師と私と横山開教師の３人は、ロスアンゼルスを後にしてフィラデルフィアへ向った。時計の針を3時間進めて、夜9時半、12名乗りのセスナ機にやっと乗り継いで大圓尼師の待つウィリアムズポートへ到着。

小さな片田舎の飛行場であった。33度のロスアンゼルスから吐く息が真白。澄んだ空気に満天の星空の広がり、寒さに身を縮めながら出迎えの大圓尼と3年ぶりの再開に涙して喜びあった。車で20分ほどの閑静な木立ちの中に平等山禅堂があった。時計の針はすでに12時を回って、今日の1日は空の客となって長かった。

翌朝、心入れの玄米粥で朝食。10時半より2日間にわたるリトリート（ミニ接心）。車が次ぎつぎと到着し、遠い人はボストンより8時間、あとは4時間、5時間かけて来たという。25畳ほどの禅堂は35名が限度であって、70名の参禅申込者を2日間に分けてあった。

伝鐘三会、七下鐘上殿と大圓師の導師で開会の諷経が始まり、英語と日本語の入り混った読経と回向、堂行の鳴らし物、侍者の身体、宗門の行持をきめ細かに教育していた。

一炷の坐禅、経行を終え飯台。全員が応量器を使用する展鉢作法である。この日の昼食は、アメリカに24年在住し、永住権を取っておられる花巻出身の阿部義雄氏が、10日前にお姉さんを亡くされて、その供養にと典座をして下さった。ある雑誌で大圓尼のことを知り、仏教と聞いて、お坊さんが懐かしくて車で4時間かけて訪ねて来たのが縁となったという。レストランで働いている腕を生かし、この日の午時供養はくるみと大葉の混ぜご飯、わかめと豆腐の味噌汁、ニンジンとブロッコリーの胡麻あえと、一汁一菜の禅堂食であるが、大変手の込み入った味付けに感動し、お姉さんの冥福を祈った。

午後1時半より「十牛図」の提唱。牛年に因み修行の段階をわかり易く論理的に説明され、大圓師と横山師の通訳に熱が入り参禅者は姿勢を正して食い入るように聴いていた。コーヒーブレイクをとりながら2〜3の質問を受けた。そして老師著述、大圓師訳の「ＺＥＮ　ＳＥＥＤＳ」を参禅者がバイブルのように持参しており、その本に老師が美しい筆運びで禅語をサインすると、「ワンダフル」「ビューティフル」の歓声があがり充実した1日に大満足して日帰り参禅者は帰って行った。

平等山禅堂でのレクチャー

初日のリトリートを終え平等山禅堂の外へ出てみると3階建ての白いアパートであった。100年前の石壁の棟と増築された木造の棟とが1つになって9部屋あるという。そのうちの3部屋（1階、2階、3階）を大圓師が賃貸し、1階を禅堂、2階オフィース、3階参禅者の為の宿泊所としていた。そして石壁の棟にはお母さんと弟さんが1部屋ずつ使って合計5部屋借りているという。2年前から売りに出ていて買い取りたい希望があったのだが、毎月の家賃ですら四苦八苦の現状で、とても資金がなく、今ではすでに新しい家主さんに変ってしまったという。

ペンシルバニアは大圓師の故郷であり、慣れた土地がらと日本の軽井沢にも似た環境は、禅堂には最適な場所であると思った。日系人皆無、禅仏教、日本文化など全く縁もゆかりもない処に、24年間アメリカを離れ、日本の尼僧の姿で帰って来た大圓尼を見て、村の人達は窓を全部閉ざしたという。それから7年の歳月、人にそしられ、どなられ、軽べつされ、その中にあってお母さんが大圓師の手となり足となって激励を繰り返し、そのお陰で信念をかえることなく一歩一歩、着実な歩みの成果が、今日このように大勢の参禅者が大圓師のもとへ集うようになった。中には授戒得度した仏弟子が6人も育ち、坐蒲、応量器包、箸袋などは作務の時間に作られたという。

アパートのペンキ塗り、室内のクロス張り、カーテンそして事務室のコンピューター等の諸設備は、みんな参禅者の奉仕と浄財によるものだった。参禅者は「毎日、時間の許す限り坐禅に通いたいのだが、遠すぎるのと交通便が悪いので、もう少し都会で道場を開いてほしい」という要望が出ていたが、大圓師には今のところ、ここを離れる考えはない。ただもう少し禅堂が広ければと、日本からの支援を大変嬉しがられ、さっそく宗教法人認可の手続きをとって、来年には法人設立開単の運びにむけて、近くの売り地を買いたい希望を持っている。

大圓師の活動は平等山禅堂だけでなく、身障者のカウンセリングや、近郊の刑務所に投獄されている死刑囚と熱心に坐ったり、2つの大学のサークルに坐禅指導を行っている。

2日目のリトリートを終えた夕方、近くにあるクエーカ教の集会所で、老師の話を聞きたい人達が40名ほど集まっていた。ペンシルバニアはウィリアム・ペンというイギリスのクエーカ教徒の開いた町だという。クエーカーは「幸福を探す」教えで、宗教宗派の壁を越えて「聖なる話」、「真実の言葉」を聞く耳を持っている人達の集まりだという。大圓師も時々この集会所に招かれて道元禅師の教えを話されているそうだが、この夜も老師の1時間半にわたる「どう生きたらよいか」の法話を真剣に聴いていた。

ノーサンプトン

21日㈫、4泊5日御世話になった平等山禅堂と大圓師のお母さんにお別れし、空路ピッツバーグ経由でハートフォード空港に到着。バレー禅堂主任開教師の藤田一生師が出迎えて下さった。レンタカーを借りて横山師の運転でノーサンプトンの町へ出た。街路樹が紅葉し美しい晩秋であった。この日の夕刻、藤田師が坐禅指導を行っているスミス女子大の小ホールで老師の講演会が予定されていた。

スミス・カレッジで講演

この大学は世界の諸宗教の指導者を時折招いて宗教講座が開かれており、これもひとえにこの大学で教鞭をとっておられ、日本の浄土真宗の僧籍をもつ海野教授のはからいであった。

老師は「私の頂いた仏法」と題して大圓師、海野教授、藤田師の3人の通訳にて1時間半ほどお話をされた。

翌日バレー禅堂を拝登。人里離れた山中の禅堂は樹木の半分が落葉して、きびしい自然と簡素な生活の中で、只管打坐に打ち込む藤田師に、良寛や山頭火を思い浮かばせるものがあった。この日のバレー禅堂に初

雪が舞い、奥さんの尚美さんが早朝より皮をむいて炊いて下さった栗ご飯のぬくもりがいつまでも残っていた。

マサチューセッツ州　バレー禅堂にて

23日㈭ノーサンプトンからレンタカーで走ること約2時間半、アメリカの古都ボストンに着いた。ここではボストン在住の池田永晋開教師が待っていてくれた。ボストンでは池田師が率いるビーン・タウン・サンガという参禅会のグループとハーバード大学の小講堂で老師の講演。

ビーン・タウン・サンガにて（中央・池田永普師）

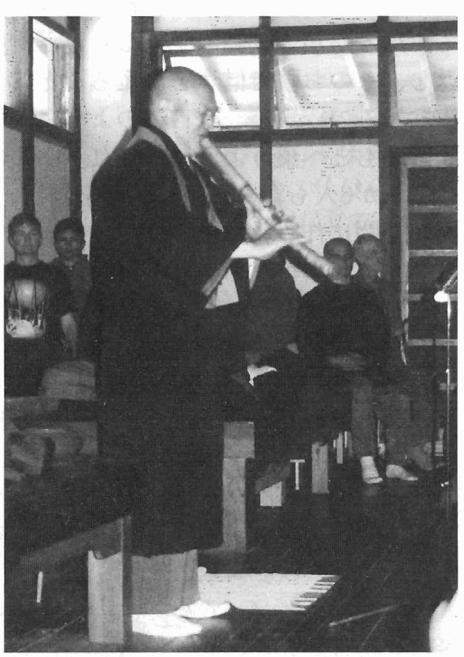
ハーバード大学にてテラバーダ系仏教徒との対談

サンフランシスコ

25日㈯、藤田、池田の両開教師とお別れして、時計の張りをまた3時間もどして最終目的地のサンフランシスコに到着。空港にはサンフランシスコ禅センターの堂頭、春望・ブランテー・ハートマン尼師と孝開尼（アメリカン）が出迎えて下さった。春望尼師は着物に改良衣、絡子の日本僧と同じ身支度に頭髪は七部刈りで、厳格な中にも慈愛が滲み出ている方であった。

サンフランシスコ禅センターにて

禅センターはベイ・ウインドウの建物が立ち並ぶ住宅街の一角にあった。コートヤードという中庭を囲んで、本堂、坐禅堂、食堂、宿舎を備えもつ大きな建物であった。ここで2泊3日拝宿させて頂き、役寮のポストをもっている2〜3人の尼僧さん方と少し触れ合うことができた。この禅センターは、タサハラ、禅センター、グリーン・ガルチという3つの道場の中心であり、自給自足の大規模な運営方針に禅センターのイメージが変わった。なぜならば、平等山禅堂、バレー禅堂、ビーン・タウン・サンガと“貧しさ”の中にこそ輝いている坐禅の姿を見てきたからだ。



尺八を演奏する鈴木道雄師

このセンターは4年

前から選挙によって堂頭が決められ、はじめて尼僧が堂頭になった。ゆえに役寮のほとんどは女性で、過去の複雑な諸問題はすべて解消され、今はうまくまとまっているという。男性、女性、僧格が共同生活をするということは、アメリカの法律下にせよ堂頭の力量が期待される。

26日㈰、海辺に近いグリーン・ガルチ・ファームに於て坐禅と老師の提唱があった。

日曜日とゴールデン•ゲイト•ブリッジや国立レクリエーション地域となっている環境もあって、禅堂に入る人の長蛇の列が続く。ここでＳＯＴＯ禅インターナショナル事務局員の飯島尚之師（東京）、浅井宣亮師（愛知）そして尺八の名手•鈴木道雄師（秋田）の3人が激励と応援にかけつけて下さって、肉親に会えた嬉しさであった。

250名が入った大きな禅堂は、閑坐一点の世界であった。40分の坐禅を終えて、老師の提唱は「置かれている場所は何処でもよく、どう生きるか./ 人生の目的は長生きすることでなく、よく生きることだ。よく生きるとは今はよくないと気づかせて頂くことだ」という内容を具体例を出してわかり易く説かれ、結びは喜心、老心、大心の話でまとめられた。

提唱のあと鈴木道雄師の尺八「奥州薩慈」の演奏にしばし望郷の念に慕る。

翌日、オークランドにある好人庵禅堂を拝登し、秋葉玄吾開教総監に挨拶。日本庭園を望む本格的な禅堂で、木の香りが新しかった。

オークランド•好人庵にて　開教総監•秋葉玄吾師とともに

総監の奥さん、好さんの点前にて一服頂戴し、大海の荒波に鎮座する童子観音のような人柄に、禅を行じている姿を見せて頂いた。

28日㈫　カーメルという美しい避暑地を経由して、タサハラ禅マウンテンセンターを訪問。愛知専門尼僧堂に安居経験のある慈照尼師の運転する車からラウンドクルーザーに乗り換えて、峰を越え峠を越えて約1時間、谷間に禅センターがあった。

ここはカリフォルニアで最も古いリゾート地として知られ、温泉が湧き出ていた。年2回行なわれる3ケ月安居の最中で、約70名の安居者は老師の提唱を待っていた。

昼食後、老師は最終日程を済ませた法体をゆっくり温泉で癒され、夕刻サンフランシスコに戻り、桑港寺での法話の会にのぞんだ。

タサハラにて

15日間、長いようで短かった「北アメリカ布教の旅」は、天候と体調に恵まれて予定どおり無事終了することができた。これもひとえに開教総監老師はじめ開教センター•スタッフの諸師、各巡回地で御世話をして下さった開教師、そして何よりもはじめから終りまで老師の心を汲みとって御同行、御案内役をして下さった横山泰賢師の御配慮と温かく限りない熱い求法の精神に支えられての旅であったことに感謝したい。

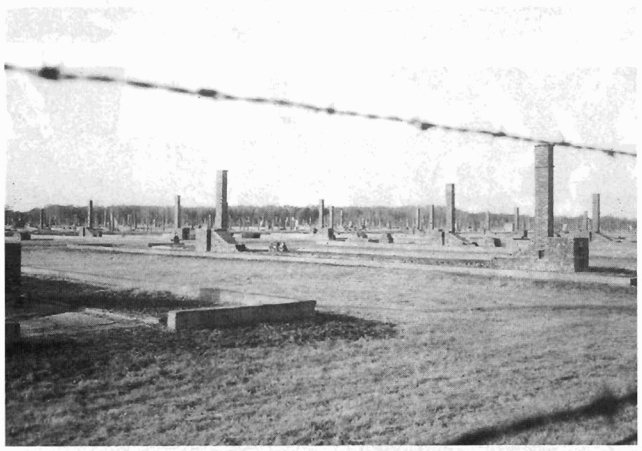
海外インフォメーション

ポーランド

アウシュビッツでの平和祈念リトリート

盛岡市在住　**板垣　光昭**

禅ピースメーカオーダー（ＺＰＯ）主催のアウシュビッツでのリトリートは11月11日よりポーランドのアウシュビッツで開催された。参加者は約100名でしたが、日本人の参加は４名でしたが、私を除く３名は何れも米国在住の方で日本からの参加は私一人でした。リトリートのスケジュールはアウシュビッツの見学から始まった。第１収容所（いわゆるアウシュビッツ）は、現在は博物館になっていて、収容所時代の様々な史料が展示してある。それらの史料について、約半日にわたり専門の説明員から事細かに説明を受けた。史料の内容は、様々だったが、収容された人々の顔写真、収用時に押収された物品（鞄、靴、義足等）、収容後に収容者から刈られた頭髪（30畳くらいの広さに山積み）、その頭髪によって織られた布などがとても印象的だった。一通り見学した後に、処刑の壁の前でユダヤ教のラビによる供養を営んだ。カディッシュという儀式で内容的には宗教歌を中心にしたものであったが、イーディッシュ語で営なまれるので内容的なことは理解できなかったが、最中に感極まって泣き崩れる人、地面にひれ伏す人が多く、私もその感情に引き込まれて、胸が熱くなるのを否定できなかった。



ビルケナフのバラックあとの煙突郡

その後、バスで第２収容所のビルケナフに移動した。ビルケナフは、アウシュビッツよりはかなり広く、鉄道の引き込み線などがあって、よく写真で見かける強制収容所のイメージはこっちのことだなと思った。バラックは30数棟しか現存しておらず、後はバラックの中にある暖炉の煙突だけだった。バラックは長細く、中はとても薄暗く、真ん中の通路には長細い暖炉があるにはあるのだが、氷点下の中で生活するにはあまりにも心もとないものだった。一通りの見学が済んで門の前でランチを頂いた。小さなプラスチック容器に一杯のスープ(スプーンはない)とパン二切というものだった。スープの味は当時とは比べようもないが、当時を偲び大事に頂いた。この昼食は最後の日まで続いた。

ビルケナフの引込線と坐禅に向かう人々

午後は、引込線の中にある空き地で坐禅をした。坐禅中は、ナチの収容者記録にある収容所でなくなった人たちの名前を東西南北に分かれ、それぞれ３人が交代で読み上げるのである。考えてみれば、坐禅と言うよりも全体での施食会といった感じだった。１人で約100人の名前を読み上げるのであるが、ヨーロッパ各地からの収容者なので、同じような綴りでも読み方が異なり、私の番のときはポーランド人の女性に助けていただいた。この坐禅を終えて一旦各自の宿舎に戻り、夕食を食べてから資料館に集まり２時間ほど全体で討論をした。討論というよりも体験発表に近いもので、強制収容所での体験者は真剣で、感情をまともに表現する方が多かった。

以上が１日目の内容である。２日目からは朝は各宿舎で小グループに別れての討論があり、その後朝食を取ってビルケナフに出かけ午前は、ユダヤ教・イスラム教・キリスト教・仏教に別れて朝課をし、その後、坐禅・経行を繰り返すのが日課となった。これが、アウシュビッツでのリトリートの内容である。

私個人として思う事は沢山あり、一言で言い表せないが、あえて言えば国際性の難しさである。本当に、海外開教を考える場合、この国際性についての理解と経験を深めないと表面的なものになってしまって、本当には根づかないのではないだろうか。

海外インフォメーション

イタリア

第11回 世界宗教者会議 平和の集い

PEACE IS THE NAME OF GOD
XI International Meeting People and Religios

ファイナル・セレモニー　於 サン・マルユ広場（ベネチア）

東京都・長泰寺副住職　**大谷　有為**

去る10月５日から７日までの３日間、昨年度の第10回大会に続いて、今年度も《第11回世界宗教者会議・平和の集い》が開催された。今回の開催地には、イタリア北部に位置し、「水の都」と呼ばれる世界的な観光都市ベネチアと、ベネチアからほど近い古都パドバァが選ばれた。

世界各国から集まる宗教者、政治関係者による講演・座談会によって主に構成されるこの会議の今回のメインテーマは、〈出会いか摩擦か〜岐路にたつ宗教と文化〉である。曹洞宗からは、永平寺後堂・天藤全孝老師、そして第１回から毎年参加されている群馬県長楽寺住職・峯岸正典老師がこのテーマにそって講演された。また、SOTO禅インターナショナル会長・松永然道老師も永平寺国際部部長として、昨年度に引き続き参加された。

最終日のファイナル・セレモニーは、世界で最も美しい大理石造りの広場といわれるベネチアのサン・マルコ広場で行われ、集まった人達全員により世界平和が祈念された。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

昨年度の大会において、人と人との出会い、そして人類と宗教の出会いの必要性について講演された峯岸正典老師は、今年度は、《祈りの生活と世界平和》というタイトルで、誓願という観点から世界平和について講演をされた。要約は以下の通りである。

◆「祈る」ということの根底には、「誓願・誓う」ということがある。自分がそうありたいという誓願が背後になければ、祈るということは成立しない。そして、その誓願に支えられた祈りが、私達の内面に行き先を示してくれる案内板となる。私達は弱い存在であるが、祈ることにおいて、案内板に何度も助けられながら、道を歩んでいく。

◆「誓う」ということのなかには、当然「誰かと共に歩む」ということが前提としてある。また、「共に歩む」ということのなかには、「お互いに相手を尊重する」ということがなくてはならない。「尊重する」ということは「愛し合う」ことであり、「愛し合う」ということは「認め合う」ことである。「認め合う」ということは「自分と異質なものも受け入れる」ことであり、「異質なものも受け入れる」ということには、「自分自身を開くこと」が先立つ。「自分自身を開く」ということは「自分の固定観念から離れる」ことであり、これは自分が「自由になる」ということである。「自由になる」ということにおいて、人は明るくなり、周りの人々も幸せになるのである。誓願に支えられて、一人が祈り、一人が変わっていくことで世界全体が整っていくのである。

◆一人一人の個人のあり方が、世界全体の幸福形成を司っているのである。この幸福を支える土台となる平和は、抽象的なものではない。平和は人間にとって具体的なもの、現実的なことなのである。私達も具体的、現実的に平和の構築を心がけなければならない。平和の構築は、私達が根源的に静かになり、自分を空っぽにすることから始まる。

◆「禅」というのは、ただ坐っていることではない。最も必要とされていることを、最も適切な形で実現する道を意味している。そして、そのためには本当に坐りきることが必要である。なぜなら、祈るということは、ひとときだけのことであってはならないからである。むしろ、生活全体が誓願の表現としての祈りでなければならない。そして、その生活全体が祈りとして世界に貢献するものになるために、私達は根源的に深く静かに坐らなくてはならない。

◆「坐禅」は坐っている一人を本当に静かにする。この一人一人の静けさこそが世俗世界の真の平安を生み出すルーツであると信じている。なぜなら、禅の具体性というのは、一人一人ここに居るという現実から離れてはいけないということであるからである。

発表される峯岸正典師

海外インフォメーション

北米

開教師連絡会議レポート 開教師会議に参加して

埼玉県・見性院副住職（北米・サンタバーバラ在住） 橋本 英樹

去る8月22日㈮～24日㈰まで、場所をロサンゼルス空港近隣のホテル、THE WESTINにて北アメリカの開教師会議が開催された。

私は門外漢ながら現在米国に滞在しているということでオブザーバーとしての参加を許された。ここ半年余り、禅宗寺の行持などには度々随喜させていただいており、北米曹洞禅の教線が今後どのような方向を歩むべきなのかその動向に関心を寄せている一人でもある。

今回の会議は、北アメリカ開教75周年記念事業が盛会裡に円成し、北アメリカ開教センター発足しての初の協議会であるため、その内容も盛りだくさんであったように見受けられる。総監部・開教センターの用意した資料は十数部と実に多く、その労苦は察するに難しくない。更にその資料の大部分は日英両語で出来ているのである。

第一日目、午後3時より開講諷経、秋葉新総監の導師のもと、本尊上供が始まった。終って総監挨拶。この中で秋葉総監は所信を表明し、就任の抱負を語った。この日の議案は主に75周年記念事業報告、会計報告、総監部業務報告、会計報告、開教センター経過報告、Associetion of Soto Zen Buddhists と総監部の関係などが話し合われた。初日の議題は報告書に添って進行し、細部の問題点や更なる協議を必要とするものは後日を期するということで、会議は円滑に流れていたように思われる。

2日目、午前9時議事再開。総監部理事改選が行われた。投票の結果を受けこの度理事は計10人となった。総監部・開教センター事業方針については特に開教センター発足に伴い、初代所長に就任された奥村正博師によって詳細な事業説明があった。発足してまもない開教センターであるが、すでに年間事業計画案もよく練られており、周囲の期待と関心を寄せるこの企画は筆者にも興味あるところである。例えば、月例宗典講読会・仏教講演会、巡回布教、各時節の接心、ニュースレター発行、教材研究・作成など。いずれも次世代の北米開教を担うに相応しい事業計画である。

昼食を挟んで、午後から理事会。これは当然理事の方のみに限られた。引き続いて午後3時より開教センター運営委員会。これも先程と同じように奥村所長によって議案が出され質疑応答によって進められた。

終っての懇談会は伝道教師や禅センターの代表を交えての和やかな雰囲気であった。ここでの話し合いは大いに盛り上がっていた。途中から伝道教師や禅センターの代表もこの場に居合わせたため会話はすべて英語に切り換えられた。日本語が話せない人が一人でも入ると言葉は即、英語に転換することは開教師の方のまじめなところで、今だ英語力に貧しい私にはそれなりに勉強になり有意義であったと思う。

3日目、午前8時より、北アメリカ曹洞禅連絡会議。日本語が話せない方の参加もあった為、すべて英語による会議進行となった。総監挨拶、自己紹介に始まり、やがて議案へ総監部・開教センターの説明、Association of Soto Zen Buddhists と開教総監部・開教センターの関係、最後に将来の展望ということであった。終始英語による議論が展開されていたために筆者にはどうしてもその流れについてゆくことは出来なかった。これも一つ今はいい刺激となっている。英語に堪能であることはこれからも更に求められていくのであろう。日頃の自身の勉強不足を歎いた次第である。会議は午後1時に終了して散会となった。

今回の会議に参加して感じたことは日本側（宗務庁）とアメリカ側（主に伝道教師）の意向を総監部・開教センターがどう受けとめて、よりよい方向へその前途を見出せるかということが一つ。それから総監部・開教センターの新たな組織作りということであろうか。ただ筆者がここアメリカに来て北米の事情を垣間見るに、アメリカは広大で、開教師や伝道教師その他宗侶の状況もまちまちであることである。独自性を重んじられるこの国で人事を把握して行くことは容易ならざる事柄であろう。こうした現状を踏まえて身命を惜しまず宗門の海外開教発展に寄与する開教師の方のご尽力に頭の下がる思いがする。今後も私なりに一宗門人として北アメリカ開教に関心を持ち、陰ながら支援して開教の前途を祈念申し上げたいと思う。

曹洞禅ジャーナル『法眼』創刊号 1997年10月より抜粋

「夢中説夢」

開教センター所長　奥村　正博

（1）アメリカの人々との私の修行経歴

私が初めて京都の安泰寺で5日間の接心を坐ったのは1969年の1月のことでした。私は20歳で駒沢大学の学生でした。日本の京都にある名も知られていない小さなお寺の小さな禅堂にたくさんの外国人が坐っていたので驚きまました。以来、私にとって西洋の人と一緒に坐禅修行をすることは特別なことではなく、ごく当たり前のことになりました。

私が内山老師の得度を受けたのは1970年の12月8日でした。1972年に駒沢大学を卒業し、安泰寺で修行を始めました。内山老師は、私に英語の勉強をするように勧められました。老師は海外から来る人々に英語で坐禅修行の説明ができ、日本語から英語へ坐禅のテキストを翻訳できる人を育てることが大切だと考えられたからです。私はいやとはいえず、イギリスから来られた、鈴木俊隆老師の参禅者だった人が経営していた大阪の言語センターで英語の勉強を始めました。

1975年に内山老師が引退された時、私はパイオニア・バレー禅堂と云う小さな禅道場を設立するためアメリカのマサチューセッツ州に行き、禅堂を創るため、安泰寺から来た他の二人の雲水と一緒に働き修行しました。1981年までバレー禅堂におりました。

パイオニア・バレー禅堂から日本に帰った時、内山老師からライト・トム・大通師と一緒に坐禅のテキストを、日本語から英語に翻訳するよう云われました。私達は、もとの安泰寺（1976年に安泰寺は兵庫県に移転）から近い小さなお寺で3年間一緒に働き修行しました。

1984年に私とライト・トムは、京都宗仙寺の故細川祐葆老師と渡辺耕法老師（安泰寺における内山老師の後継者）の援助により京都曹洞禅センターで翻訳作業と修行を始めました。主に海外から来た人たちと一緒に修行し翻訳活動をし、曹洞宗宗務庁の資金援助によって5冊の本が刊行されました。

1993年私は、片桐大忍老師が設立されたミネソタ禅メディテーション・センターにヘッド・ティーチャーとして招かれました。1996年8月まで3年間そこで修行し、同年9月三心禅コミュニティーを設立致しました。1997年4月曹洞宗北アメリカ開教センターの所長に任命されました。私が二十歳のとき初めて接心を坐って以来、私は主に西洋人、特にアメリカ人参禅者の人達と一緒に修行を続けてきました。内山老師はいつも「私の誓願は、本物の坐禅修行者を育てる事と、すぐれた坐禅のテキストを作ること」と云われておりました。私は、老師の法嗣の一人として、老師の誓願を受け継いでいきたく西洋の人達と坐禅修行をし、道元禅師や内山老師の著作を翻訳してきたのです。

開教センター所長に就任を要請されたとき、私はその適任ではないと思いました。何故なら、私は坐禅しか知らないからです。曹洞宗の開教活動は、もっと幅の広いものでなければならないでしょう。私は曹洞禅の寺院や禅センターで行われている坐禅以外の活動について何も知りません。しかし、誓願のため最終的に拒否できませんでした。私は、日系アメリカ人を対象にしている曹洞宗のお寺で、開教活動をして来た方々や、色々な禅センターや禅グループで修行をしてこられた皆様から、多くのことを学ばなければいけないと感じております。

（2）独立と共存

私が自分の経歴について書いたのは、私の経験が70年代80年代のアメリカにおける曹洞禅サンガの一つのあり方の例であると考えるからです。私は約30年の間、主にアメリカの人々と坐禅修行をしてきたのですが、日系寺院やアメリカの禅センターとの関係はほとんどありませんでした。ワイツマン・メル・宗純師が、彼の文章の中に書いているように、アメリカにおける日系人曹洞サンガと、いろいろなアメリカ人サンガ、またアメリカ人サンガ同志も、長い間、80年代中半ぐらいまでだと思いますが、関わり合いがありませんでした。それぞれのグループが独立、もっと云えば孤立していたのです。アメリカに最初に来たとき、開教師としてくるのを避けました、何故なら、私達は日本の宗務庁から派遣された布教師であることを好まなかったからです。むしろ、私達は安泰寺の別院を設立するためと考えていました。私達は他のアメリカ禅センターとの関わり合いを望みませんでした。何故なら、自分たちの修行が一番本物だと思っていたからです。アメリカ人の禅センターで行われていたことは、何かいかがわしいものだと感じておりました。

80年代前半あちこちの禅センターで多くの問題がおこったのを聞いたとき、自分は正しかったと思いました。

しかしながら、80年代中半以後いろいろな禅センターに友人ができ始めました。1984年に東京の曹洞宗宗務庁で開かれた、海外開教シンポジウムに参加して以後、私は日本の修禅寺、大乗寺、興聖寺、アメリカのグリーンガルチ禅センターで行われた、宗務庁主催の伝道教師研修所・特別接心に参加する機会を得ました。1988年から1991年まで、講義やリトリートを指導するため、いろいろな禅センターから日本に来た人が、京都曹洞禅センターに滞在し、坐禅修行を共にし翻訳を手伝ってくれました。ミネアポリスにおりましたときは、多くの片桐老師のお弟子さんや参禅者と一緒に修行することができ、たくさんの小さな禅グループを訪問する機会を得ました。このようないろいろな系統からの人達と一緒に修行するチャンスを通していろいろなグループの多くの指導者や参禅者と知り合いました。

それらの出会いを通して、多くのことを学び、私の世界は広がっていきました。困難な状況の中で仏法を学び、坐禅修行をする多くのまじめな人達と出会ったのです。独立心は大切だと思いますが、孤立する必要はないと思います。私達がなすべきことはこちらの人々と一緒にやって行ける道を探し出すことと、仏法の参究と坐禅修行を共にし、お互いの独自性を評価し尊敬できる場所を創造することです。健康的な自立を抜きにして健康的な関係を持つ道はありません。また、自立が孤立になってしまったら、関係を持つことは不可能です。

曹洞宗北アメリカ開教センターの任務は、それぞれの人やグループが独立し、対等でかつ独自性を持ち、曹洞禅仏教の中のお互いが柔軟に学び合える環境を促進することだと私は思います。

ワイツマン・メル・宗純師が彼の文章の中で問題点を取り上げています。「開教師と伝道教師は合流して一つのグループになるべきか、それともお互いの独立性を維持するべきか」「このことが我々と日本曹洞宗との関係にどのような影響を及ぼすのか」「実際に何が一緒にできるのか」「お互いに提供できる最上のものは何か、そしてそれが我々の独立性にどのように影響するのか」。これらの問題に対する最終的な答えは簡単に見つけることはできません。むしろ、早急に結論を出さない方が良いと思います。しかし、今は共に考え、話し合い、お互いに理解し合う良い時期だと思います。相互の理解を抜きにして結論を出してしまうのは危険でしょう。

例えば、開教師と伝道教師は、簡単に日本人とアメリカ人という別れ方をしているのではありません。現在21人の開教師の内７人はアメリカ国籍、日系アメリカ人は２人、その他４人は禅センター出身で、あとの１人は、日本で得度したアメリカ人です。彼らは日本の専門僧堂で修行し、日本の宗務庁から教師資格を得ています。

13人の開教師はアメリカ人サンガで活動しています。その主な活動は伝道教師の指導する禅センターと何ひとつ違いはありません。日系寺院に属する開教師は７人です。開教師が指導しているサンガは、伝道教師が指導している禅センターより小さいのです。そうしてみると、伝道教師のセンターは、アメリカにおいて歴史があり、もっと確立されていると云うことです。さらに言えば、それら開教師のサンガの次の世代は、まったく伝道教師と同じ状況になります。

また、アメリカ政府は、移民法の改正をしており、私たち宗教家でも永住権を取ることがもっともっと難しくなります。将来多くの日本人指導者が、この国に開教師として来ることは困難な状況となりましょう。

このような状況を考えると、私は何故この国の曹洞禅協会が、二つに別れなければいけないのか、論理的かつ現実的な意味を見いだすことができません。将来、アメリカの曹洞禅サンガが一つの独立した存在となり、日本の曹洞禅仏教徒と対等で友好的な関係ができればと願っております。

（３）北アメリカ開教センターの任務

曹洞宗北アメリカ開教センター規程による当センターの任務は以下の通りです。

①北米社会における布教教化の推進。
②北米における宗門寺院、禅センターの資料及び情報の収集。
③翻訳、英語教化資料の作成。
④各種研修会、講演会、摂心の企画、及び実施。
⑤北米における寺院、禅センター、及び社会情勢の把握と、それを踏まえた教化活動の研究。
⑥日本からの情報の伝達、及び資料の提供。
⑦宗務庁出版物の紹介、及び配付。
⑧その他の必要な事項。
⑨運営委員会（ボード）、企画委員会を組織して、上記の目標を達成していく。

以上のような基本構想に基づいて行っていきたい。活動は以下の通りです。

（１）10月　愛知専門尼僧堂堂長・青山俊董老師による巡回布教

禅の歴史上、あまり女性指導者の話は出てきませんが、アメリカには多くの女性指導者がおり、禅における女性の役割について度々話し合われています。

禅における女性の指導力に興味のある方には大変助けになると思います。

また、アメリカ国内における数名の曹洞禅の指導者による巡回布教も企画しております。異なった系統のグループや地域において、講演やリトリートを指導して頂き、日本とアメリカは、さらには、アメリカ国内の違ったグループ同志の相互理解を助けることになるでしょう。

（２）色々な修行道場で摂心を行います。1997年と98年には、カリフォルニア州のロサンゼルス禅宗寺、禅マウンテンセンター（陽光寺）、タサハラ、そしてミネソタ州の宝鏡寺で４回の摂心を企画致しております。日本とアメリカ両国からの参加者を僧俗問わず募集しております。摂心を一緒に行じることはお互いの理解と友好関係をより深めるのにすばらしい機会になると思います。

（３）ニュースレター「曹洞禅ジャーナル」を年２回発行致します。これは日本とアメリカの曹洞禅仏教徒双方から情報を提供し、お互いの対話を促進することが出来るでしょう。

（４）曹洞禅のテキストを日本語から英語に翻訳し出版致します。アメリカの曹洞禅仏教徒にとって助けとなる魅力的な曹洞禅のテキストはたくさんあります。私達の翻訳作業は学術的な物ではなく、ある程度実際的で一般的なものです。

（４）夢中説夢

20年前私が何をしたかを考えたとき、私は夢の中にいた気がします。また、私が今何をしているかは、70年代に私が考えたことからすると夢のようです。

20年後に私が何を考えているかは夢です。そして、間違いなく20年後に私が今現在何をしていたのかと思った時、夢のように感じることでしょう。私達の生活は夢の中で夢を説くようなものです。

「この夢中説夢処、これ仏祖国なり、仏祖会なり。仏国仏会、祖道祖席は、証上而証、夢中説夢なり。この道取説取にあひながら仏会にあらずとすべからず、これ仏転法輪なり。この法輪、十方八面なるがゆゑに、大海須弥、国土諸仏現成せり。」正法眼蔵　夢中説夢

私達が夢の話をしている時、また、夢を実現するため現実に働いている時も、私達はすでに夢の中にいるのです。私達がすべきことは、21世紀を視野に入れ、仏の法輪をこの地に転ずるよう努力を続けることだと私は信じています。

開教センター役員

（南原師、桑原氏、奥村所長、秋葉総監、横山師、古溪師）

SZIだより

ワークショップ

海外開教と開教師支援について

去る10月12日(日)・13日(月)の両日、細川正善師の帰国慰労会と「海外開教と開教師支援について」のシンポジウムを熱海・ニューさがみやに於いて開催した。

12日の慰労会には永平寺東京別院の武田秀嗣副監院をはじめ有縁の宗侶30人が出席し、永平寺の南沢道人監院、総持寺の江川辰三監院、秦慧孝老師、田上太秀教授からのメッセージも披露された。

細川正善師帰国慰労会

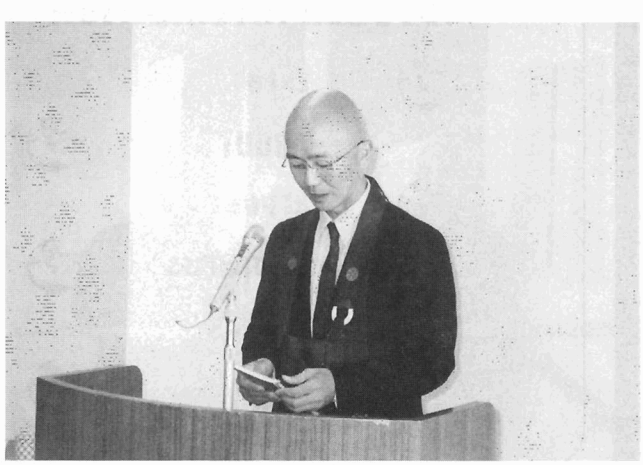
翌日は、早朝からSZIの活動理念の再構築を目指してシンポジウムが行われた。パネリストとして元北米開教総監部参事・桑港寺主任開教師・細川正善師、横浜・善光寺住職・黒田武志師、宗務庁人事部秘書課長・山本健善師が発表。司会進行は事務局長・福島伸悦師が当たった。

ワークショップ開催の目的

発足から5年目を迎えたSZIは、この間、関係者だけの関心事にとどまりがちな海外開教問題を宗門全体の問題として取り組むよう啓蒙活動を展開してきた。世界情勢は大きな変革の中で目まぐるしく動いており、曹洞宗の海外開教も様々な視点から検討されなければならない。しかし、現状は宗門として海外開教に対する方向性が明確に示されているとは言い難い。各開教区でそれぞれに事情が違っていると言うこともあり、難しい問題が山積みしている。今回のこのワークショップは、こうした内外情勢を見極めつつ、もう一度SZIの活動・事業を見直し、新たな方向性を探る意図によるものである。特に開教師支援の為の積み立て基金の活用方法を再検討し、支援のあり方を模索したシンポジウムであった。

シンポジウム

サンフランシスコ・桑港寺の主任開教師として18年余に亘り布教活動に従事してきた細川師は、北米開教が抱えている諸問題、特に開教師・伝道師の要望す



細川正善師

るものは何かについて話した。その中で、現地での僧籍登録、個人的な布教形態から組織的な布教展開への転換、寺族も含めた経済的サポートなどの必要性を訴えた。

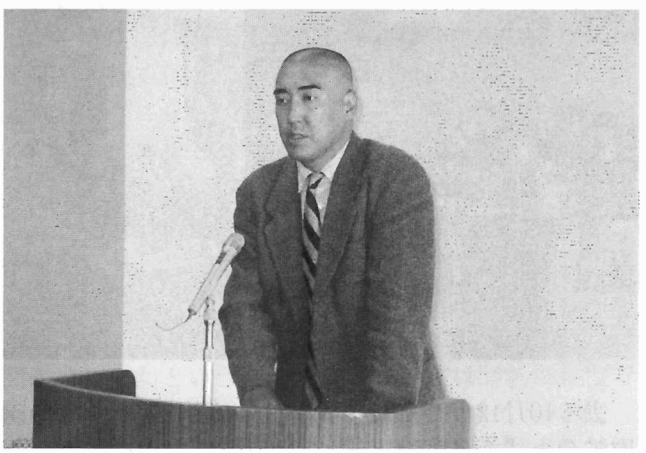
横浜善光寺留学僧育英会を設立し、広く世界に活眼を開く人材育成の重要性を説いて、多くの留学僧を育て導いている黒田師は、育英会運営の経験を通して意見を述べられた。「法輪転ずるところ食輪自ら転ず」の信念から「ビジョンがあれば、お金は集まる」と説き、各禅センターと人的交流を図ることによる人材育成、海外に出たい者はどんどん送り出し、国際感覚を身につけた人材を育てること、さらに翻訳出版物の刊行、海外での徒弟研修など提案。

宗務庁教化部で20年来、一貫して海外関係に携わってきた山本師は、国際課の開設に伴い同課長に就任し、行政面から海外布教、開教師支援に尽力してきた経験から、宗門の海外開教に対するビジョンの新構築が必要であると論じた。また、宗門の外部や檀家にも理解を求め、支援を得てはどうかと提言された。

フロアーからも活発な意見が出された。海外布教のシンクタンク的存在になること、若い人が触発されるような魅力的な活動、閉鎖的でなく社会性のある活動、参禅指導者の育成、東南アジアを視野に入れた活動、海外布教を理解してもらうための世論形成や環境作りを求める声などが上がった。

事務局としては、これらの意見・提言をもとに今後の活動に生かしていきたい。

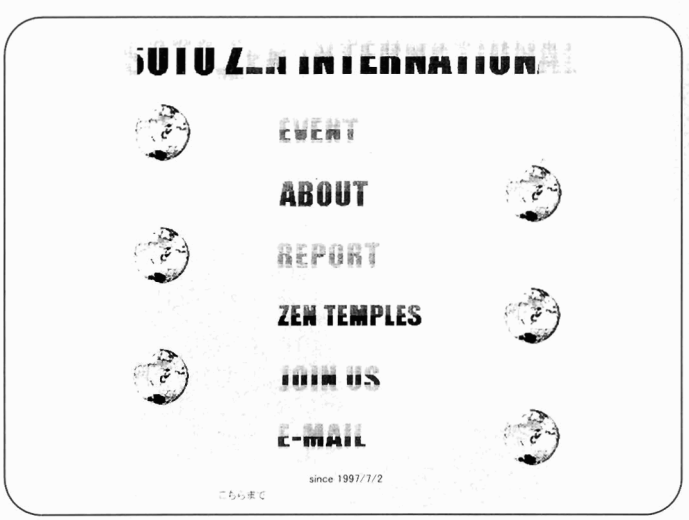
黒田武志師

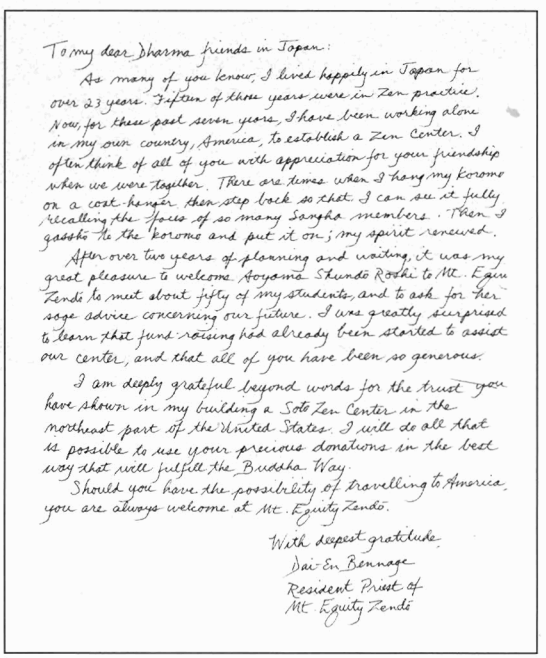


山本健善師

ホームページ紹介

SZIホームページ　http：//www.pa.airnet.ne.jp/szi





To my dear Dharma friends in Japan:

As many of you know, I lived happily in Japan for over 23 years. Fifteen of those years were in Zen practice. Now, for these past seven years, I have been working alone in my own country, America, to establish a Zen Center. I often think of all of you with appreciation for your friendship when we were together. There are times when I hang my koromo on a coat-hanger then step back so that I can see it fully, recalling the faces of so many Sangha members. Then I gassho to the koromo and put it on; my spirit renewed.

After over two years of planning and waiting, it was my great pleasure to welcome Aoyama Shundo Roshi to Mt. Equity Zendo to meet about fifty of my students, and to ask for her sage advice concerning our future. I was greatly surprised to learn that fund raising had already been started to assist our center, and that all of you have been so generous.

I am deeply grateful beyond words for the trust you have shown in my building a Soto Zen Center in the northeast part of the United States. I will do all that is possible to use your precious donations in the best way that will fulfill the Buddha Way.

Should you have the possibility of travelling to America, you are always welcome at Mt. Equity Zendo.

With deepest gratitude,
Dai-En Bennage
Resident Priest of
Mt. Equity Zendo

ベナージュ大円師からのお礼状

寄付者・会費納入者名簿

■「アメリカに於ける女性禅指導者を支援する会」への寄付

ご協力ありがとうございました。
愛知専門尼僧堂受付
(11月20日現在)

大須賀珠心　大阪市
松倉露子　宝塚市
永野那津子　宝塚市
東光寺　加藤孝道　豊橋市
青木尚信　豊橋市
大谷文祐　新潟県
井上信男　長岡京市
河井悠光　新宿区
匿名　豊中市
佐久間顕一　京都市
金子晴子　神戸市
益田順子　豊中市
今村美代子　大東市
石川はる子　西宮市
野村文江　城陽市
玄泉寺　鬼頭春光　名古屋市
土方庸子　多摩市
青木昭子　名古屋市
森田美保子　栗太郡
吉岡小しま　池田市
円通寺　渡辺良順　滑川市
高橋好子　京都市
下南喜代子　京都市
運西寺　坂上静道　尾道市
近藤明美　名古屋市
宮崎つや子　宮城県
大原明子　埼玉県
長友トミ子　埼玉県
田内洋子　愛知県
鉄相寺　室賀月宗　新潟市
武井美知子　長野県
藤川知佳子　吹田市
永原嘉奈子　名古屋市
古谷住子　宝塚市
永照庵　高畑秀英　東大阪市
松月寺　松月義峰　広島県
谷口ひさ子　品川区
小林明子　松本市
中塚たへ子　京都市
秋口まさ子　京都市
染川豊子　大阪市
江口みさ江　江南市
雪野貴美子　広島市
谷口延江　広島市
宝積寺　西有孝裕　群馬県
片寄洋子　名古屋市
佐藤節子　岡崎市
森田成郎　四日市
長全寺　本宮顕道　豊橋妙厳寺
禅昌寺　吉用慈鑑　神戸市
野村孝子　瑞穂区
石川吉弥　小金井市
新井千津枝　埼玉県
岡村雄子　沖縄県
松下　登　新城市
中川泰郎　名古屋市
兜森恵美子　渋谷区
久岑寺　名古屋市
大安寺　中西道信　長野市
成林庵　飯田恵昭　墨田区
安養寺　去来川俊晃　加西市
諏訪部自恭　墨田区
西光庵　栗井信教　新宿区
西光庵　北川教全　新宿区
西光庵　大野諦念　新宿区
西光庵　日比信道　新宿区
石井平八　北区
岩井　泉　瑞穂区
清水嘉子　千種区
薫田義教　岩倉市
阿部恵美子　岐阜市
匿名　京都市
戸松文秀　京都市
㈱三友社　千代田区
成林庵　渡辺智孝　墨田区
善光寺　遠藤清徳　港区
水野恵子　千種区
六条照瑞　藤井寺市
松操寺　高畑良円　池田市
曇華院　狩野孝旻　京都市
袋中庵　賀幡圓純　京都市
松林寺　金松孝道　上伊那郡
清閑寺　千種区
悟渓寺　高木教禅　丹羽郡
水月庵　赤江良山　富山県
合掌苑　川嶋妙香　大阪府
白石恭三　芦屋市
浄心寺　小池政雄　文京区
智韻寺　新堀智朝　渋谷区
観音寺　臼木牲海　新潟市
普門寺　石本観光　新潟県
江口貞子　豊田市
天桂庵　今井義明　渋谷区
天桂庵　今井恵晃　渋谷区
慈照寺　戸田竹道　川崎市
加藤節子　名古屋市
西光寺　金松霊道　長野県
観音寺　名古屋市
鈴木得忍　横浜市
立松得明　瀬戸市
正村美喜子　一宮市
中宮寺　日野西光尊　奈良県
観音寺　長沢節定　三鷹市
不動院　山田孝隆　新潟県
清江寺　足立光優　羽島市
永平寺　不老閣　福井県
持明寺　早瀬明輪　大津市
禅宗修道会　岡山県
廣正寺　君島洞光　長野県
匿名
佐藤祖全　新潟県
牧平良本　愛知県
長音寺　阪口融光　摂津市
古川雄峰　愛知県
遠藤隋了　大阪府
孝道山　岡野正貫　横浜市
常昌院　野村清明　中野区
寛喜院　池田海音　長野市
小川祐貴子　春日井市
坂野なつ子　春日井市
十王寺　松田良順　池田市
吉村寿子　宇治市
栄松寺　長谷川宣教　堺市
目黒順導　港区
川名観恵　港区
地蔵庵　長野市
大岸恵美子　春日井市
小野祥亮　山口県
小林さよ子　各務原市
妙説庵　久我悠鳳　京都市
島田喜久子　文京区
専念寺　新宿区
吉岡遐子　京都市
寺宝舘　横井・増田　豊川市
寺宝舘　本宮・有福　豊川市
興福院　日野西徳明　奈良市
森下和栄　新城市
及部あさを　新城市
加藤美知子　名古屋市
新堂敏幸　新宿区
新堂有希　新宿区
阿部　渡　清瀬市
永昌寺　埼玉県
小田切恒子　長野県
渡辺清子　尾西市
田島妙子　新宿区
福島伸悦　行田市
心月院　丸井芳胤　八戸市
地蔵院　細貝祖孝　新潟県
地蔵堂　佐藤孝順　新潟県
肥留川暁子　板橋区
森塚祐峰　名古屋市
高島尚子　神戸市
地蔵庵　鈴木祖光　長野市
功運寺　佐々昌樹　中野区
長沼敬一　千葉県
石川吉弥　小金井市
中里富治雄　調布市
浮岳妙威　府中市
照明寺　星　恵宏　山形県
照明寺　星　良雲　山形県
秋山峰寛　愛知県
宗栄寺　塚田宗顕　長野市
渡辺慈光　愛知県
萩原恵美子　愛知県
名塚幸仙　港区
田島宗秀　名古屋市
直指院　大坪仙定　山口県
薬師院　北川祖由　兵庫県
荒川浄心　愛知県
妙元寺　名古屋市
照臨院　近藤徹　京都市
川橋範子　愛知県
石田真弓　群馬県
相田重子　北区
永野那津子　兵庫県
岡本英子　広島市
横江　満　愛知県
木下道子　埼玉県
城林会会場のカンパ
愛知専門尼僧堂
松野実応　山口県
宗英寺　稲富アイ子　横浜市
興禅寺　芳村笙子　滝川市
岩田仁巳　名古屋市
寺本紀代子　名古屋市
鳥居洋子　知立市
飯島禅道　長野県
山田マサ子　江戸川区
山下十糸美　名古屋市
平沼皐美代　東京都
山口万可ね　名古屋市
水越幸枝　愛知県
佐藤禮光　愛知県
成蓮院　兼岩澄光　名古屋市
岩沢君子　川崎市
五島俊通　柏崎市
竹村正伸　刈谷市
勝見直子　渋谷区
川本邦子　千田谷区
石川重子　港区
渡辺瑠璃子　大田区
雨宮俊子　港区
板谷治子　港区
竹下妙子　埼玉県
山田ヒサイ　港区
細野秀子　港区
石井雪子　港区
小島球子　港区
吉田克子　港区
戸塚佳津江　港区
下坂美代子　渋谷区東
西尾悦子　石川県
花長　能村　港区
芝田昭江　武蔵野市
高橋登代　港区
渡辺常楽　名古屋市
広瀬紀子　名古屋市
観音庵　新宿区
正覚寺　山田宣宗　荒川区
竹俣春明　荒川区
大林院　竹俣昭孝　荒川区
松月寺　富尾智恵　愛知県
田中千代　愛知県
駒井孝子　埼玉県
菅原美智子　埼玉県
廣明寺　廣澤智孝　長野県
無量寺　青山俊董　塩尻市
山本大恭　新潟県
香林寺　愛知県
正麟寺　宮沢俊弘　松本市
河井悠光　新宿区
泉蔵寺　神奈川県
笹川悦導　東京都

・SOTO禅インターナショナル(SZI)受付(11月20日現在)

1　俊朝寺　港区
2　西有寺　横山敏明　横浜市
3　興徳寺　阿部秋好　大宮市
4　貞昌院　亀野哲雄　横浜市
5　中島真澄　足立区
6　福寿院　台東区
7　大泉寺　久保井恭彦　八王寺市
8　永昌寺　埼玉県
9　東昌寺　埼玉県
10　常楽寺　羽金文雄　秩父市
11　東泉寺　竹内博徳　埼玉県
12　海蔵寺　松本力也　千葉市
13　重俊院　千葉市
14　妙劉寺　愛知県
15　青原寺　鈴木豊子　中野区
16　圓福寺　板橋区
17　妙全院　町田市
18　城願寺　山本光豊　足柄下郡
19　延命寺　林　辰哉　足柄上郡
20　宗胤寺　児玉重夫　千葉市
21　昌福寺　深谷市
22　乗国寺　鈴木仙舟　結城市
23　薬師寺　柿本大真　愛知県
24　洞雲寺　大森旭道　岐阜県
25　覚伝寺　滋賀県
26　祇陀寺　吉田公雄　盛岡市
27　常徳寺　世田谷区
28　周慶院　佐藤黙童　西多摩郡
29　清鏡寺　久喜市
30　興善寺　埼玉県
31　長年寺　群馬県
32　等覚寺　鈴木宏憲　銚子市
33　龍心寺　花和明雄　茨城県
34　長谷寺　栃木県
35　瑞雲院　栃木県
36　高福寺　足利市
37　一心寺　渡辺亮正　海部郡
38　大本山永平寺内　南澤道人
39　空印寺　岸本孝道　小浜市
40　黄梅寺　松浦玉秀　大阪府
41　大松寺　中山敬道　京都府
42　正誓寺　京都府
43　蔵心寺　雨宮義幸　奈良県
44　興雲寺　佐伯逸雄　愛媛県
45　瑞林寺　土居孝童　愛媛県
46　円南寺　長友武明　宮崎市
47　和鋼寺　長崎県
48　天性寺　木町本献　郡山市
49　大乗寺　中村栄佑　八戸市
50　光禅寺　高沢素由　川上郡
51　神龍寺　豊田市
52　医王寺　小川宏之　渥美郡
53　長源寺　大野孝雄　新宿区
54　観音寺　市川明雄　府中市
55　桜井秀雄　世田谷
56　祥雲寺　桐生市
57　大洞院　木村誠治　柏市
58　龍泉院　北条正興　西茨城郡
59　鏡徳寺　日立市
60　玄性寺　栃木県
61　法音寺　飛田正道　加茂市
62　金龍寺　愛知県
63　洞雲院　愛知県
64　長松院　篠田一法　名古屋市
65　林光院　梶田祐三　春日井市
66　洞雲寺　静岡県
67　雲龍寺　三木市
68　本光寺　小島宗光　佐賀県
69　昌建寺　秋　央文　福島県
70　福島ビーエス観光　郡山市
71　大竜寺　三浦賢翁　秋田県
72　佐藤良徳　秋田県
73　自性院　鈴木道雄　秋田県
74　出山寺　台東区
75　興禅寺　市川智彬　横浜市
76　香林寺　熊谷市
77　龍海院　過外一雄　前橋市
78　全應寺　千葉県
79　常真寺　皆川広義　栃木県
80　泉徳寺　山崎善正　長野県
81　宝珠寺　永井成典　知多郡
82　徳城寺　滑川市
83　建咲院　山口県
84　盛林寺　福島市
85　福田院　長峰徹志　新庄市
86　東光寺　青野智道　尾花沢市
87　満福寺　伊藤道人　秋田県
88　松庵寺　秋田県
89　東安寺　岩手県
90　長林寺　島崎光雄　北海道
91　浄雲寺　厚木市
92　東竹院　岸　世一　熊谷市
93　永興寺　成田市
94　長命寺　西村英寿　神戸市
95　石雲寺　福島県
96　泰宗寺　豊島区
97　法清寺　奈良康明　台東区
98　泉龍寺　菅原征子　狛江市
99　谷昌寺　中村大慧　鳥取県
100　津龍院　舘寺昌晴　宮城県
101　歓喜寺　堀口良允　秋田市
102　大川寺　棟方清允　秋田県
103　滝川寺　大谷良心　奈良県
104　慈眼院　松浦泰俊　滋賀県
105　興禅寺　武田秀嗣　富士見市
106　建明寺　群馬県
107　観音寺　関　光禅　千葉県
108　原江寺　有馬実成　山口県
109　秋田県宗務所　秋田市
110　高岩寺　来馬規雄　豊島区
111　広教寺　山梨県
112　寿福寺　大分県
113　安養院　埼玉県
114　松林寺　埼玉県
115　宝積院　青森県
116　東善寺　群馬県
117　愛知第1宗務所4教区寺院一同　東加茂郡
118　禅林寺　鵜飼宏史　一宮市
119　春林寺　白木由高　掛川市
120　亨徳寺　山口県
121　大雄寺　宮城県
122　安楽寺　新潟県
123　林叟院　鈴木包一　静岡県
124　観泉寺　田中芳周　杉並区
125　見光寺　石塚正道　埼玉県
126　大場満洋　大宮市
127　長朔寺　新湊市
128　静岡第三宗務所第4教区　掛川市
129　弘恵寺　源野良勇　羽咋市
130　宗生寺　石塚良光　武生市
131　東照寺　今井亮修　福島市
132　総持院　田尻孝憲　兵庫県
133　満泉寺　長野県
134　長楽寺　峯岸正典　群馬県
135　竜門寺　新宿区
136　瑞岩寺　伊藤仁志　千葉県
137　養廣寺　乙川良英　新潟県
138　興徳寺　静岡県
139　中野東禅　横浜市
140　㈱石夢工房　港区
141　花島院　宮城県
142　天祐寺　光吉健爾　佐賀県
143　宝積寺　田村優子　岩手県
144　満友寺　鎌田俊龍　秋田県
145　長泉寺　長井市
146　徳運寺　大庭信江　掛川市
147　菊泉寺　名古屋市
148　愛知第1宗務所42教区一同　豊田市
149　保善寺　上村映雄　中野区
150　泉増院　浅井良英　名古屋市
151　慶林寺　神奈川県
152　松源寺　埼玉県
153　玉林寺　山形県
154　東長寺　新宿区
155　正統寺　鈴木秀一　新潟県
156　瑞雲寺　宮城県
157　龍泉寺　行田市
158　関昌寺　小池彭道　長野県
159　㈲仏教企画　世田谷区
160　慈眼寺　岩手県
161　自元寺　山崎正道　山梨県

・おことわり
青山俊董老師の墨蹟を購入する形での御協力者名、ならびにこれら支援会の事務を奉仕で務めて下さった方々の氏名は省略させていただきます。

■SZI特別寄付(会費分を除く)

97年10月15日現在
(敬称略・順不同)

堀口良充　秋田県　歓喜寺　1万
南沢道人　永平寺内　4万
山田栄一　茨城県　鏡徳寺　1万
小島孝尋　宮城県　大雄寺　1万
関　光禅　千葉県　観音寺　1万
西村英寿　兵庫県　長命寺　1万
村山正己　東京都　玉鳳寺　1万
篠田一法　愛知県　長松院　4万
黒田武志　神奈川　善光寺　5万
山本健善　東京都　2万
武田秀嗣　埼玉県　興禅寺　2万
江川辰三　総持寺内　3万
采川道昭　総持寺内　1万
山本彗彊　東京都　10万
福島ビーエス観光　1万

■SZI会費納入者

会員ご継続ありがとうございました。
97年5月1日～97年11月15日現在
(継承略・順不同)

青木　哲夫　東京都　妙清寺
赤間　直道　宮城県　龍角寺
石田　大龍　埼玉県　龍渕寺
板橋　興宗　石川県　大乗寺
糸柳　格順　静岡県　洞雲寺
乾　宗俊　神奈川　宗久寺
猪俣　正孝　静岡県　高林寺
茨木　兆禅　長崎県　西蓮寺
宇田　照彦　東京都　東照寺
大橋　幸雄　埼玉県　医王寺
大森　篤史　埼玉県　東栄寺
大八木春邦　山形県　保春寺
岡島　博司　愛知県　永沢寺
小原　智司　愛知県　西光寺
加藤　孝正　静岡県　永明寺
加納　博人　愛知県　天徳寺
岸　世一　埼玉県　東竹院
北野　良昭　滋賀県　正伝寺
金橋国際交流株式会社　東京都
黒田　純夫　東京都　桐ヶ谷寺
小池　彭道　長野県　関昌寺
小島　孝尋　宮城県　大雄寺
斉藤　征良　埼玉県　神仙寺
斉藤　大等　山口県　福田寺
桜井　秀雄　東京都
笹川　悦導　東京都　観音庵
篠田　一法　愛知県　長松院
嶋　秀正　愛知県　久岑寺
神野　哲州　愛知県　地蔵寺
関　光禅　千葉県　観音寺
高橋　秀雄　埼玉県　広徳寺
武田　秀嗣　埼玉県　興禅寺
田村　優子　岩手県　宝積寺
千代田文隆　埼玉県　祥雲寺
鳥澤　俊寛　神奈川　泉秋寺
土居　孝童　愛媛県　瑞林寺
中道　顕雄　大分県　寿福寺
長峰　徹志　山形県　福田院
成田　大航　京都府　円覚寺
西村　英寿　兵庫県　長命寺
秦　慧孝　東京都　寶昌寺
葉貫　琢良　福島県　石雲寺
平子　興正　群馬県　桂昌寺
福島　伸悦　埼玉県　興徳寺
福島BS観光　福島県
三宅　俊達　福島県　宝勝寺
水町　宗典　長崎県　青眼寺
南沢　道人　福井県　永平寺
宮崎　輝郎　長崎県　和銅寺
村山　正己　東京都　玉鳳寺
森　嶺雄　埼玉県　松林寺
安野　正樹　埼玉県　建福寺
山田　栄一　茨城県　鏡徳寺
渡辺　禅悦　山形県　清林寺
岩田　弘之　静岡県　満願寺
大山　陽堂　千葉県　海竜寺
工藤　正典　群馬県　天宗寺
慈　眼　寺　岩手県
中小路冏道　京都府　祥雲寺
長岡　俊應　青森県　大安寺
西沢　応人　東京都　祥雲寺
藤沢　好文　長野県　観音寺
松永　然道　静岡県　宗徳院

秋葉玄吾北米総監就任祝賀会

去る9月6日（土）午後1時より、この春、北米開教総監に就任した北米•オークランド•好人庵堂頭•秋葉玄吾師の就任祝賀会が、神奈川県湯河原町•吉祥院（尖秀雄住職）で開催された。横浜善光寺住職•黒田武志師の世話役で永平寺監院•南沢道人師、総持寺監院•江川辰三師はじめ多くの諸師方の出席のもと盛大に執り行われた。

北米開教総監・秋葉玄吾師就任祝賀会
左側 江川総持寺監院
中央 南沢永平寺監院
右側 秋葉総監

総会のご案内

日　時　1998年２月16日（月）友引
10:30AM　受付
11:00AM　総会
12:00PM　昼食
13:00PM　講演会
16:00PM　解散

会　場　東京グランドホテル４階「芙蓉の間」

会　費　3,000円

テーマ　仮題「異文化の中の禅修行…表と裏」

講　師　ブライアン•バークガフニ師

1950年8月15日、カナダ•ウィニベク市生まれ。
1972年、ヨーロッパ、インドを経て来日。
1973年、臨済宗入門得度。「来庵」の僧名を受け、1982年まで雲水として京都の妙心寺専門道場等で修行。
1988年、ニューヨーク国連本部で開催された第３回軍縮特別総会で本島長崎市長の講演を同時通訳。
1992年、長崎県民表彰を外国人としてはじめて受賞。NHK大河ドラマ「信長」に神父役で出演。

弔意

ハワイにおいて五十余年に亘る布教活動に従事してこられた森田宏悦開教師（禅山宏悦大和尚）が、去る七月二十五日、世寿八四歳をもって遷化されました。ここに心から哀悼の意を表します。

事務局活動日誌

（1997年6月1日～12月15日）

6月25日　ワークショップ　東京グランドホテル
「学校教育における人材育成」
講師　世田谷学園校長　山本慧彊師
6月26日　役員会　東京グランドホテル
7月11日　事務局会　行田•興徳寺
9月12日　事務局会　宗務庁第２ソートービル
10月 5日～10月 7日　「世界宗教者平和の集い」
イタリア•パドバ&ベニス
10月 7日　事務局会　池袋•祥雲寺
10月12日　ワークショップ　熱海•ニューさがみや
シンポジウム「海外開教と開教師支援」
理念構築と具体案
パネリスト　黒田武志•山本健善•細川正善
進行　事務局長
10月13日　役員会　熱海•ニューさがみや
10月25日～30日
青山師北米巡回布教随行　カリフォルニア
11月14日　事務局会　池袋•祥雲寺
11月18日　教化学大会　駒澤大学
12月 2日　打ち合わせ　宗務庁
12月 3日　事務局会　池袋•祥雲寺
12月 4日　会報編集打ち合わせ　行田•三共社印刷

編集後記

月を指さす指を月と見まちがえると本当の月はわからない。この譬えのように、目的と手段を取り違えてはならない。

ＳＺＩの活動も５年目を迎え、スタッフ一同新たな気持で、しっかり目的を定めて前進していきたい。